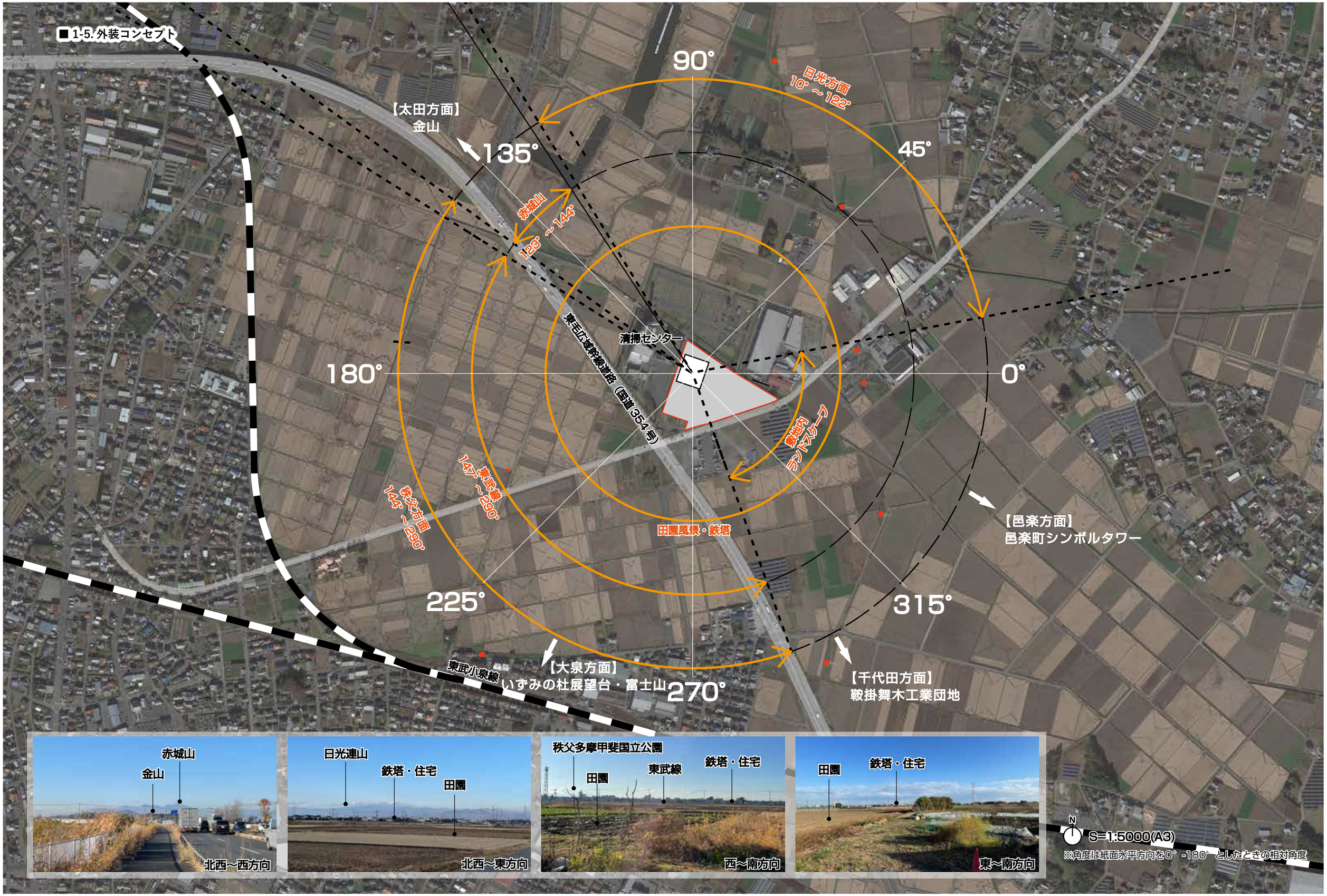
（仮称）太田市外三町広域斎場整備

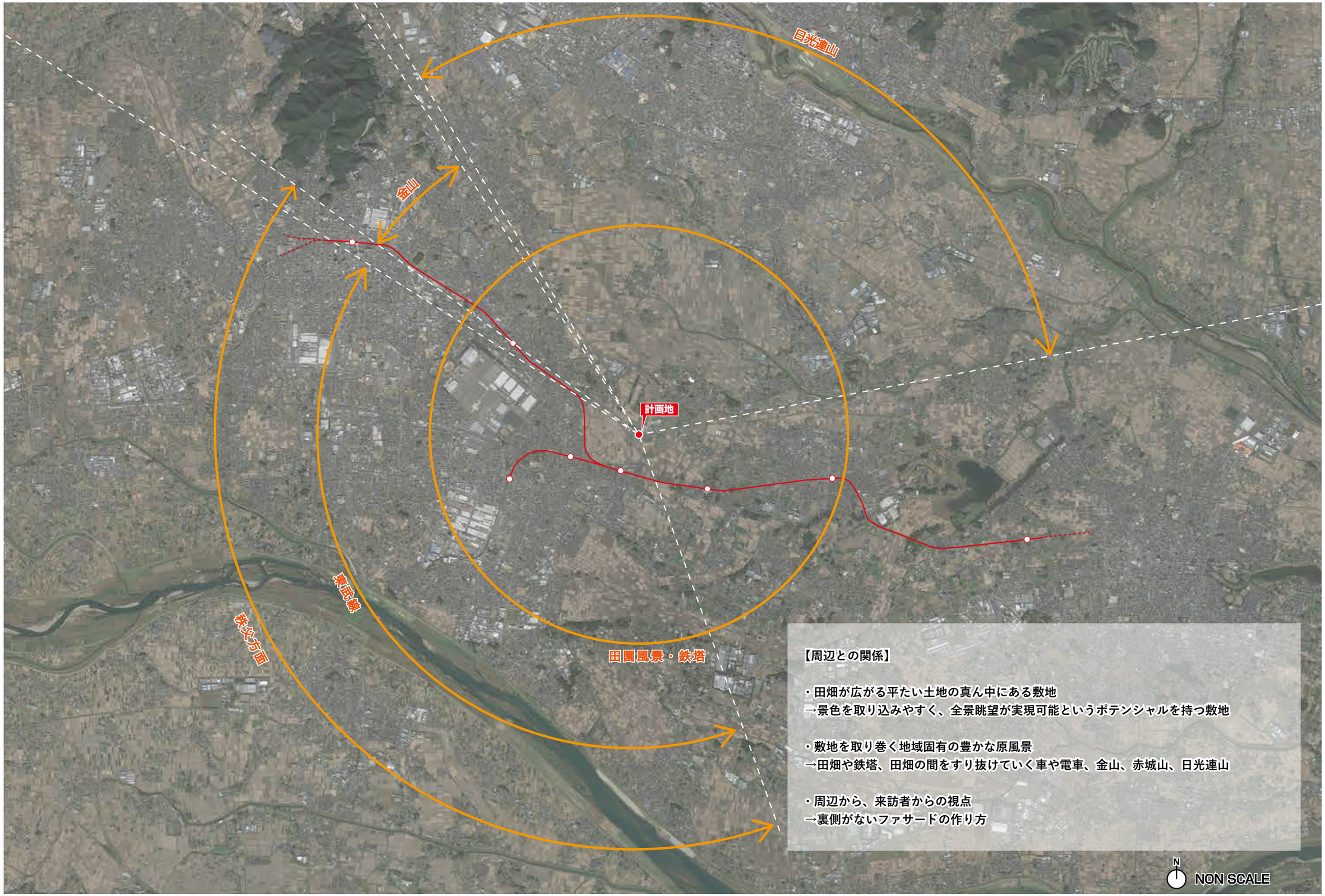
基本設計（概要版）

2023 年 3 月

太田市外三町広域清掃組合

※基本設計に記載されている内容については、
今後の実施設計で変更する場合があります。


90°
日光方面
10°～122°
45°
135°
【太田方面】
金山
赤城山
123°～144°
清掃センター
180°
0°
東毛広域幹線道路（国道354号）
敷地内
ランドスケープ
147°～290°
東武線
144°～290°
秩父方面
田園風景・鉄塔
【邑楽方面】
邑楽町シンボルタワー
225°
315°
東武小泉線
【大泉方面】
いずみの杜展望台・富士山
270°
【千代田方面】
鞍掛舞木工業団地
赤城山
金山
北西～西方向
日光連山
鉄塔・住宅
田園
北西～東方向
秩父多摩甲斐国立公園
田園
東武線
鉄塔・住宅
西～南方向
田園
鉄塔・住宅
東～南方向
N
S=1:5000(A3)
※角度は紙面水平方向を0°-180°としたときの相対角度



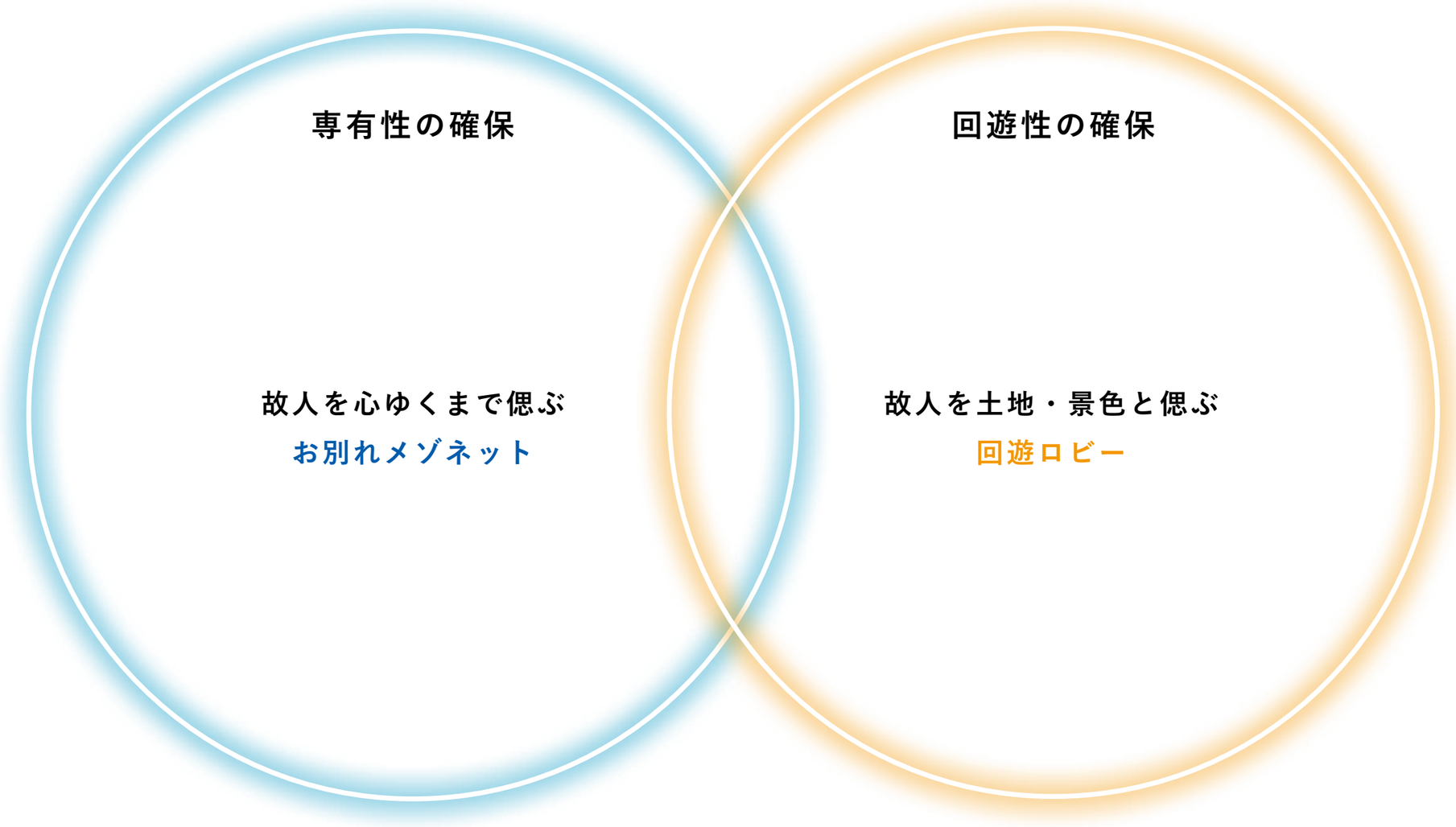
【周辺との関係】

・田畑が広がる平たい土地の真ん中にある敷地
→景色を取り込みやすく、全景眺望が実現可能というポテンシャルを持つ敷地

・敷地を取り巻く地域固有の豊かな原風景
→田畑や鉄塔、田畑の間をすり抜けていく車や電車、金山、赤城山、日光連山

・周辺から、来訪者からの視点
→裏側がないファサードの作り方

2 つのお別れ空間の実現



【告別室・待合室の考え方】

家族や親戚、友人など親しい者どうしで、最期の時間を過ごす

↓

火葬中でも自由に行き来ができ、自分たちだけの空間で最期のときを過ごせる

【提案】

〇告別室の直上に待合室を重ねたメゾネット空間で一体感を生む
〇待合室と告別室と吹抜でつなぎ、吹抜越しに故人を感じられる

【待合ロビー・共用部の考え方】

故人が過ごした土地や景色とともに故人に思いを馳せる

↓

利用する告別室の位置に依らず、視点場を選べるロビー空間

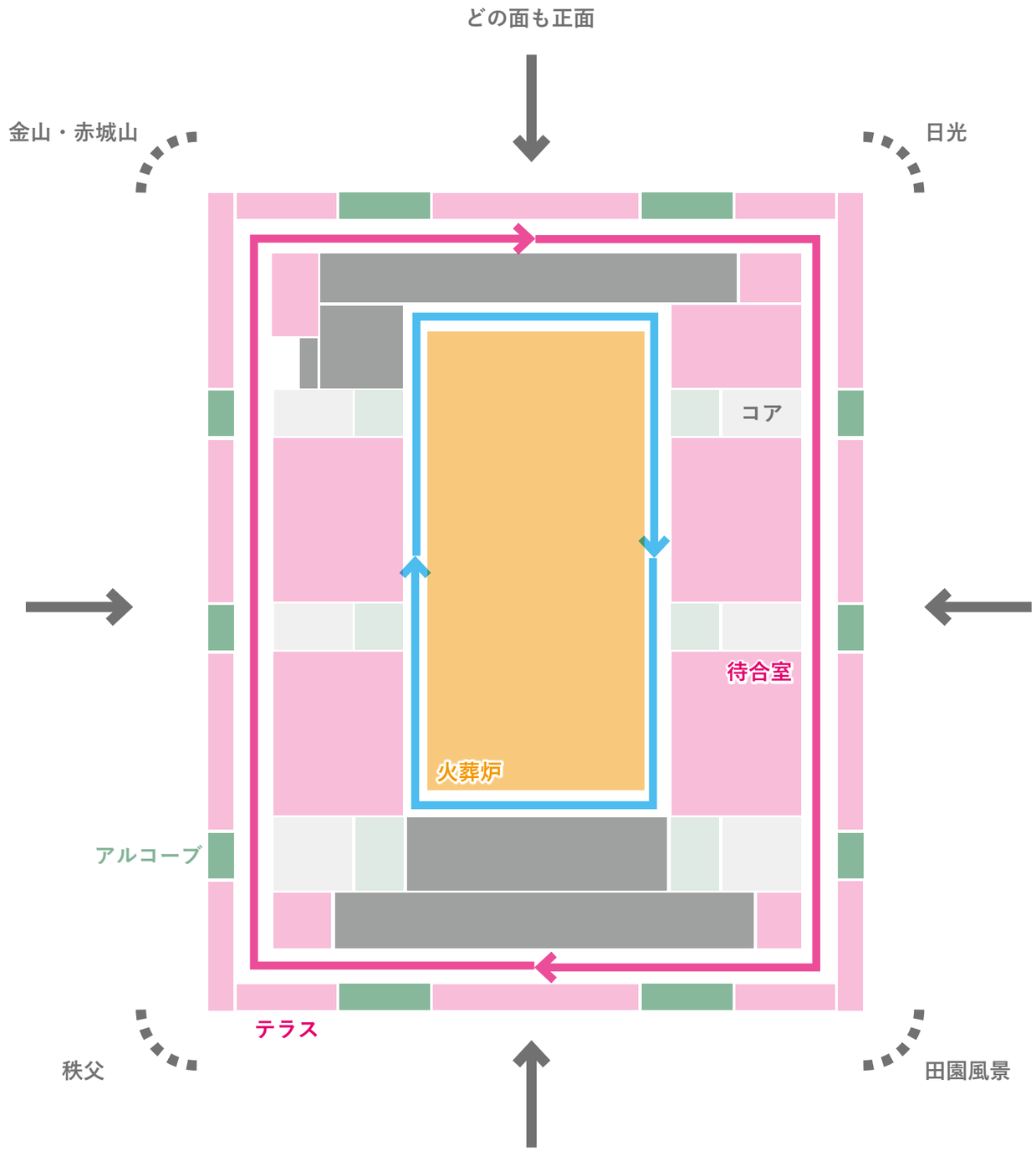
【提案】

〇建物をぐるりと一周する回遊式の廊下（自由な移動）
〇見える景色にフォーカスした開口操作（視点場づくり）
〇共用部を独立してロビーに配置し、たまりの空間（回遊の仕掛け）を創出

外装 Concept
裏の無い
火葬場

どの面も正面

敷地周辺は金山や赤城山、広大な田園風景などどれも選べない風景があります。
逆を言えば、どの場所からもこの火葬場が見えます。そんな場所に裏のある建物をつくるよりも、すべての面で正面性のある外観が好ましいと考えました。平面計画では、待合ロビーやバックヤードの廊下を回遊性のある廊下としています。外周部はテラス空間とし、待合室以外のラウンジやアルコーブをテラスのあいだに配置しました。外観にリズムが生まれどの面も正面となります。



※２階のイメージ

■ 0-2. 敷地概要・計画概要

敷地概要

延べ床面積	：火葬場：5,485.72 ㎡ 庇：484.87 ㎡ 合計：5,970.59 ㎡ ※
建築面積	：火葬場：2,884.52 ㎡ 庇：525.99 ㎡ 合計：3,410.51 ㎡ ※
用途	：火葬場
主要構造	：鉄筋コンクリート造、一部木造
基礎形式	：杭基礎
階数	：地上 2 階　塔屋 1 階
最高高さ	：13.10m ※
耐火種別	：その他※

※今後の実施設計で変更になる可能性があります。

諸室概要

火葬炉	：9 炉 +1 小動物炉
告別・収骨室	：36 人利用　9 室
待合室	：36 人利用　9 室　※待合室 2 室間仕切り開放時 最大 70 名程度
事務室	：1 室

空調設備概要

空調設備	：空冷ヒートポンプパッケージ方式
換気設備	：外調機・全熱交換器・給排気ファン
排煙設備	：自然排煙方式

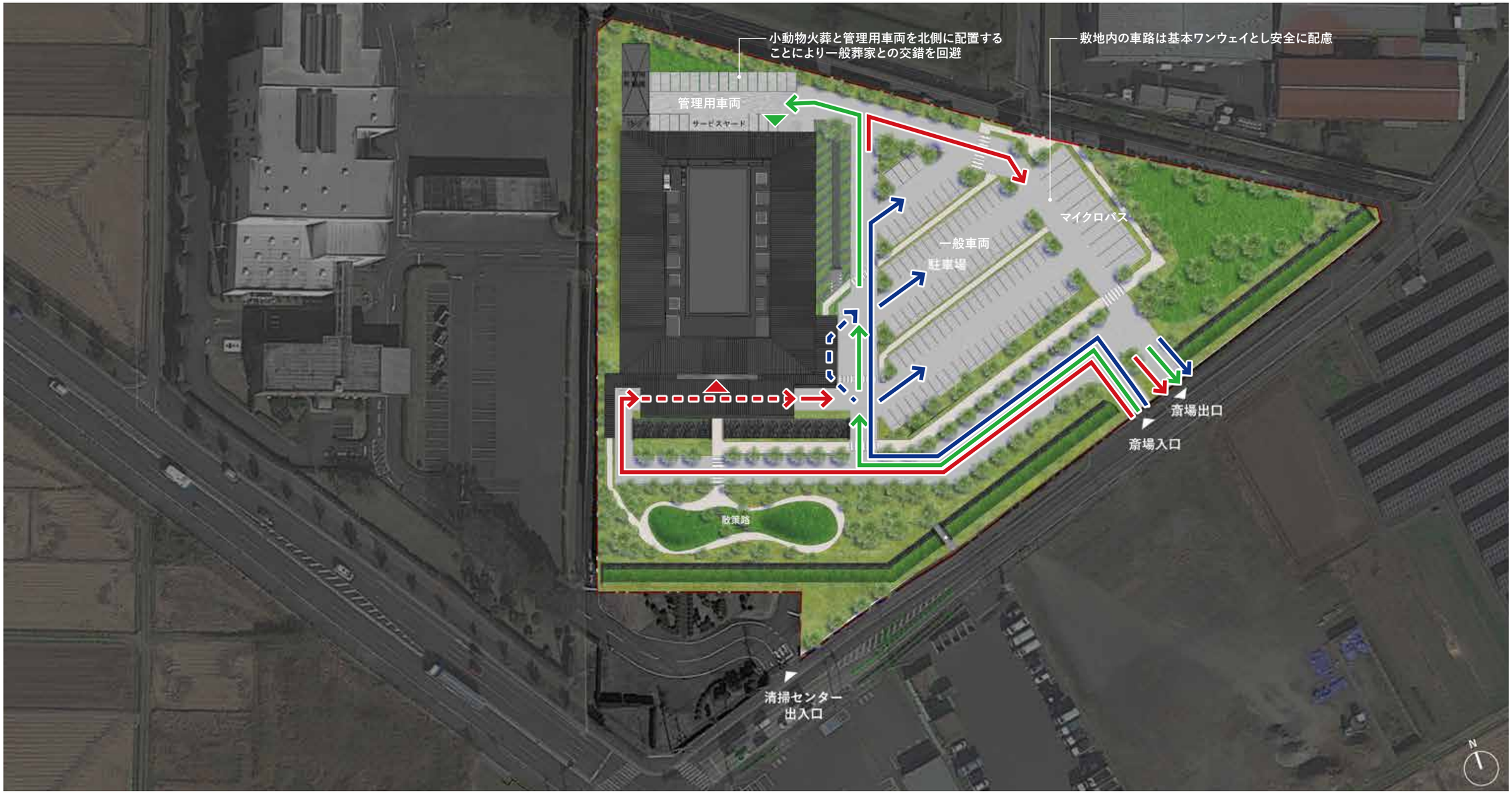
給排水設備概要

給水設備	：受水槽方式
給湯設備	：貯湯式電気温水器
排水設備	：浄化槽方式
ガス設備	：都市ガス
消火設備	：消火器、屋内消火栓

電気設備概要

受電方式	：3 φ 3W 6.6 k V 50Hz 1 回線電
設備容量	：1,625kVA（想定）
契約電力	：デマンド契約による
自家発電設備	：675kVA（想定）※非常用
太陽光発電設備	：40kwh 程度

■ 1-1. 配置計画



■配置の考え方

周囲に開けた敷地であること車両の交通量が多い道路に囲まれた敷地であることを考慮し、極力道路からセットバックした位置に配置します。計画敷地出入口付近に隣接する清掃センターの敷地出入口もあるため、誤認をさけるため十分に離隔をとる計画とします。

■配置計画

新しい斎場建物は、敷地の中央に計画します。東側に駐車場を設け交通量の多い道路からの騒音などへ配慮したバッファ空間とします。

■動線計画

・敷地出入口の明確化

本計画では北側町道が狭いため東側町道に車両出入口が集中します。敷地出入口が複数あると混乱し事故につながるため会葬者および管理用出入口は同じとします。敷地内車路幅にゆとりを持たせ、明快な動線計画とすることで会葬者と管理用動線を明確化します。

・霊柩車用車寄せと一般車両用車寄せ

南側に棺が雨に当たらず乗降できる大きな庇を持つ車寄せを計画します。３会葬同時受け入れが可能です。東側には会葬者用の一般車両用の車寄せを計画します。東側駐車場に近接させ利便性を高めます。車椅子利用者などの乗降が容易にできる計画とします。

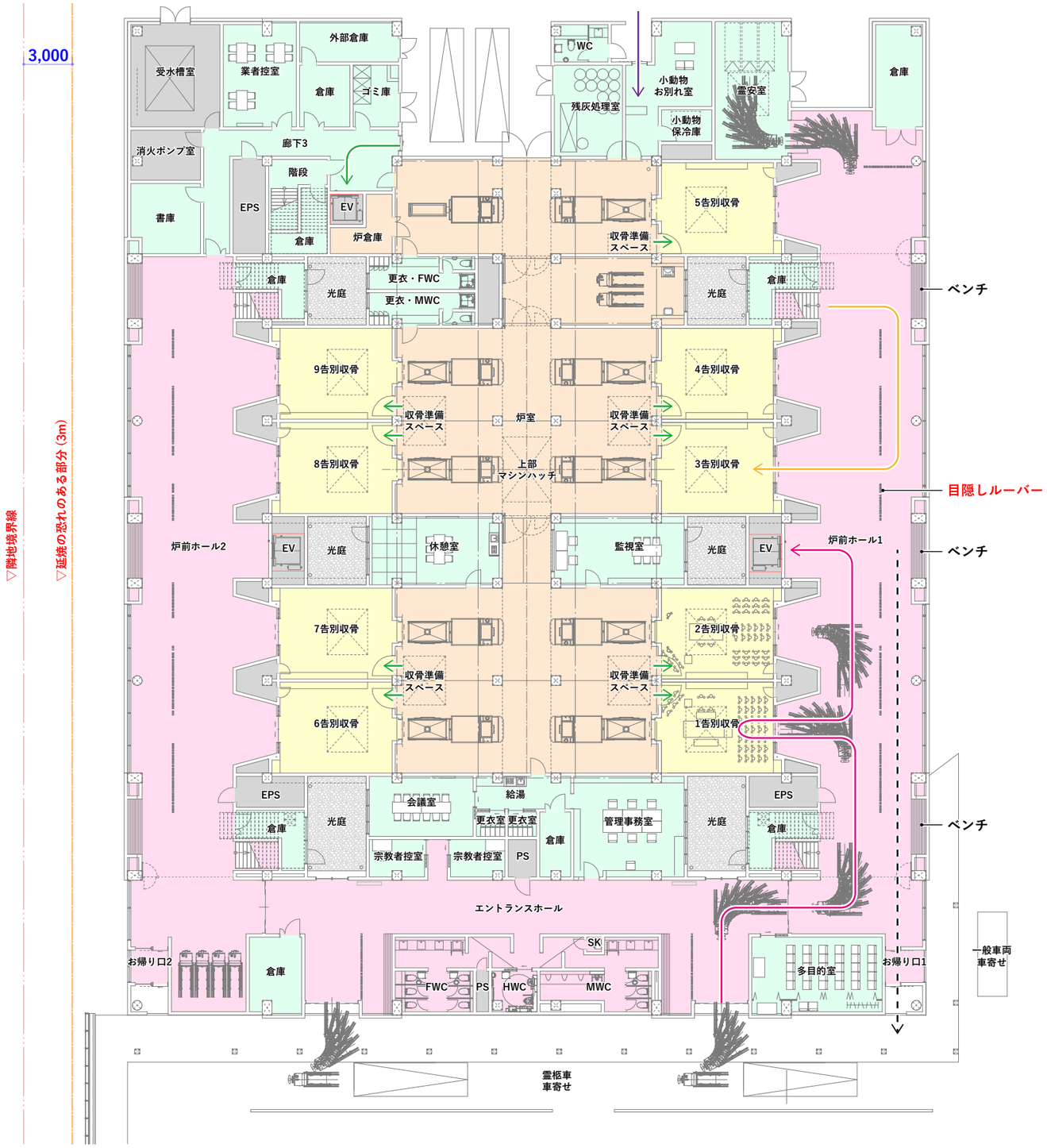
図面凡例

動線凡例	出入口凡例
：霊柩車動線	：主出入口
：一般車両動線	：小動物火葬出入口
：小動物火葬動線・管理用車両動線	

駐車台数

会葬者用	88 台
車椅子利用者用	2 台
ﾏｲｸﾛﾊﾞｽ用	10 台
管理用	22 台

■ 1-2. 平面計画



■平面計画

背合わせプラン
　炉機械室を待合ゾーンで覆うことができ、裏のない平面プランを計画します。

全体を管理し易い受付
　全体中央に配置することで会葬者の入退場を監理しやすい計画とします。

利用しやすいトイレ計画
　会葬者が来場時にトイレを利用する頻度が高い傾向があるためエントランスにまとまりのあるトイレを計画します。

光庭
　屋根、屋上雨水の排水を行う設備ボイドでありながら、バックヤードへの光や風を取り入れる機能的な光庭を計画します。

炉前ホールの目隠しルーバー
　告別利用者と収骨利用者が極力目線を合わせ内容に配慮します。

まとまりのあるバックヤード
　管理用のバックヤードを北側にまとめて計画することで運用管理し易い計画とします。

告別・収骨室
専用の告別・収骨室を配置してプライバシーに配慮します。

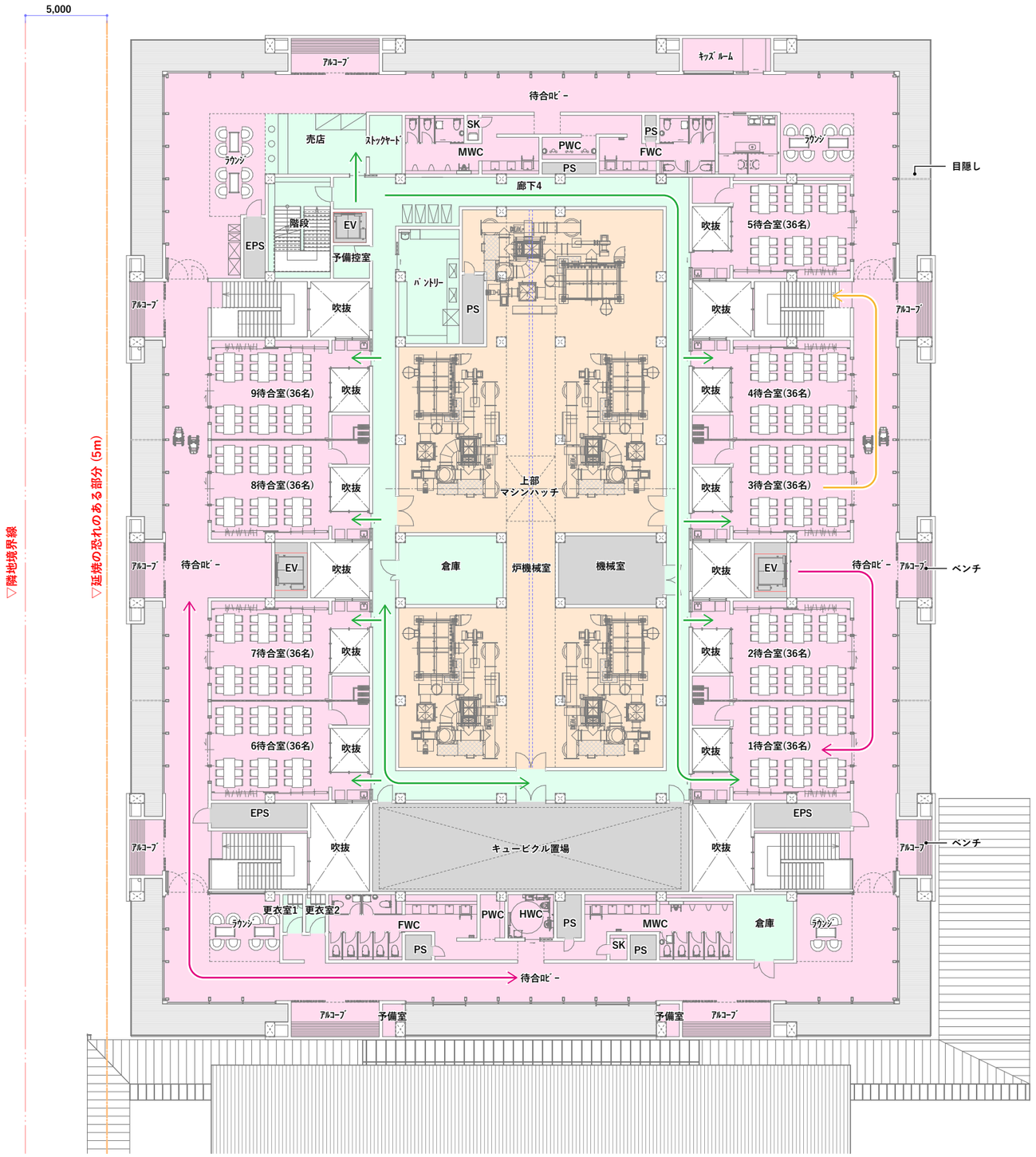
多目的室
小規模の告別式を行えるよう、多目的室を配置します。

■凡例

［ゾーニング］
- 告別収骨ゾーン
- 待合ゾーン
- 火葬ゾーン
- 管理ゾーン
- 設備スペース

［動線］
- 告別利用会葬者
- 収骨利用会葬者
- 小動物利用
- 管理・サービス
- お帰りルート

■ 1-2. 平面計画



■平面計画

交差しない管理用動線
　管理専用の回廊動線を計画し、待合ゾーンを利用することなく待合室へサービスができる計画とします。

炉の更新、メンテナンス
　２階炉機械室の床にメンテナンスハッチ、天井にホイストレールを計画します。

キュービクルの更新、メンテナンス
　２階炉機械室のメンテナンスハッチとホイストレールを利用した合理的な計画とします。

高窓のメンテナンス
　外周部にバルコニーを計画し、足場などをかける必要がない高窓の清掃がしやすい計画とします。

木造
　待合室は落ち着きのある柔らかな空間とするために木造とし仕上は木の現しとします。

アルコーブ
　待合室よりもプライベート感のある空間を計画し様々な利用ができる計画とします。

ラウンジ
　待合室とアルコーブの中間的な領域で、外を眺めながら故人を思い過ごせる空間を計画します。

売店
　軽食やコーヒーなどが購入でき、景色を眺めながら飲食ができる空間を計画します。

待合室
告別・収骨室の直上に専用の待合室を配置します。

■凡例

［ゾーニング］
- 告別収骨ゾーン
- 待合ゾーン
- 火葬ゾーン
- 管理ゾーン
- 設備スペース

［動線］
- 告別利用会葬者
- 収骨利用会葬者
- 小動物利用
- 管理・サービス

南面外観

東面外観

■立面計画

水平に広がる風景と大庇

周辺は水平に広がる田園です。水平に伸びやかに広がる大庇を設け風景と連続するデザインとします。また、開けた敷地であるため４面とも正面性のあるデザインとし周辺の風景との調和を図ります。

眺望とプライバシーの確保

２階の窓面は、バルコニーに面した前面道路側から見て奥まった位置に設けます。テラスの奥行きを確保しつつ、ルーバー形状の手摺により、外部からの視線を抑制し会葬者のプライバシーを確保しつつ、斎場内部からの眺望を確保します。

■外装仕上計画

素材を活かした外装デザイン

過度な色彩や装飾を避け、厳粛さのあるシンプルなデザインとします。本建物は構造体であるコンクリート面をそのまま外壁仕上げ材として見せ、外観上主要な部分には杉板型枠を採用し、自然の風合いを感じるデザインとします。

壁：ｺﾝｸﾘｰﾄ打放（杉板型枠）

開口部：ガラススクリーン

■ 1-3. 立面計画

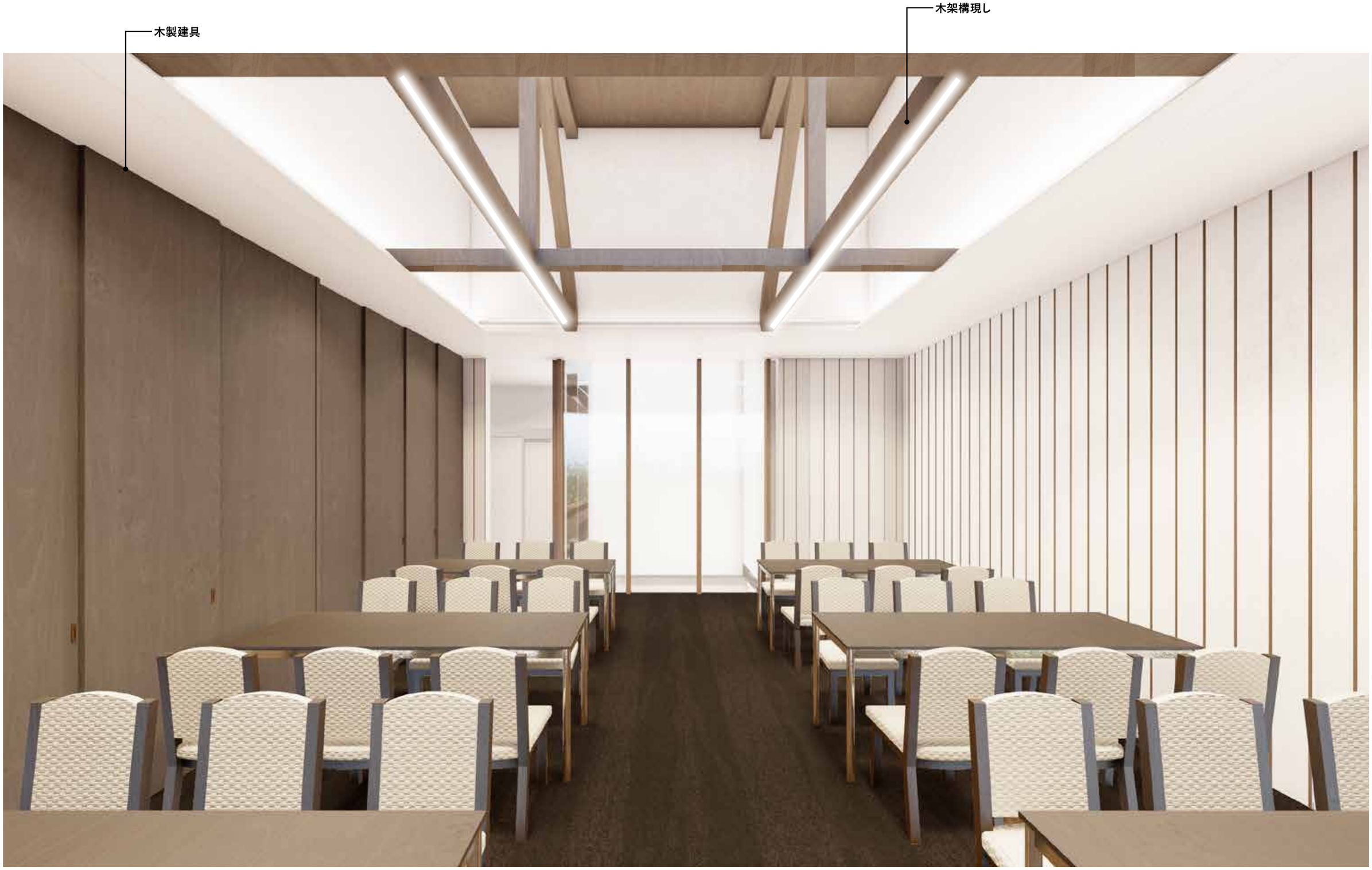
北面外観

西面外観

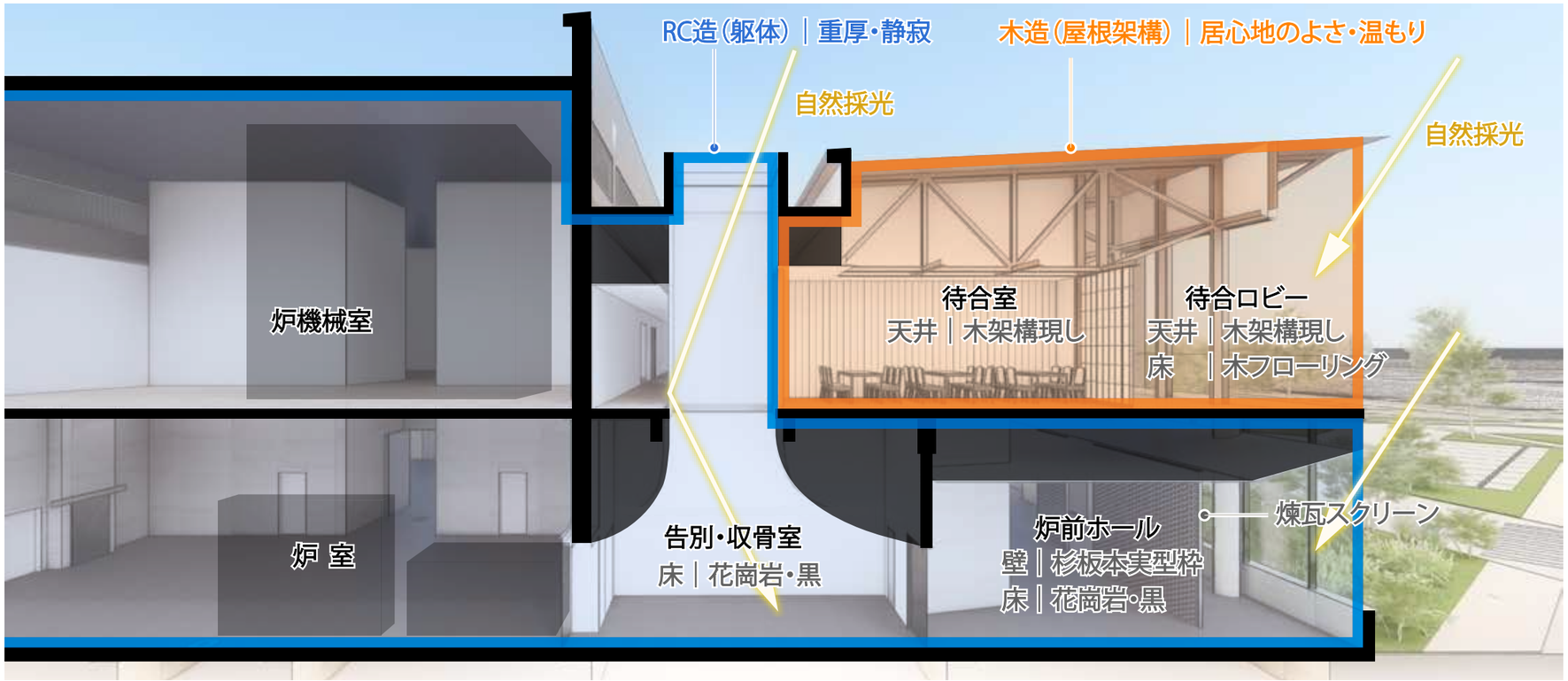
■ 1-9. 内観イメージ

■ 1-9. 内観イメージ

■ 1-9. 内観イメージ



■ 1-9. 内観イメージ

建築そのものの
素材感・質感を活かす
建築構造を活かしたデザイン

本計画は告別・収骨室、炉室などからなる一階部分及び炉機械室等の 2 階の一部は RC 造、待合室や待合ロビー等の 2 階の会葬者滞在空間は木造屋根架構で計画しています。
RC 造がもつ重厚で静寂な印象と木造が持つ居心地の良さ・温かみがある印象を活かし、建築そのものの素材感・質感と空間性が調和した合理性が高いデザインとします。
また、光庭やトップライト等 効果的に光を採り入れ、美観性を高めたデザインとします。